



# ブロイラー産業の未来は明るい ～HPAIとAWの動向を中心に～

株式会社イシイ  
代表取締役社長  
竹内正博

高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の影響とアニマルウェルフェア（AW）の動向を主に取り上げて、ブロイラー産業の未来について話題を提供したい。

## (1) けんがく

2010年より高瀬公三教授の依頼で、鹿児島大学農学部獣医学科（現在山口大学と共同獣医学部）と農学部生物生産学科の家畜生産学コース合同講義にて、学生の皆さんに年に一回「養鶏産業の未来」と題し、小冊子のテキストを配布して特別講義を行ってきた。筆者にとつて、講義は養鶏産業の将来を考える良い機会であると思っている。

1960年に一般社団法人日本食鳥協会が設立されたので、ブロイラー産業は55歳になる。ブロイラー処理重量は、28年前の1987年の186万トン（過去最高7・45億羽／年間処理羽数×2・49キログラム／羽）から、2014年の195万トン（6・61億羽／年間処理羽数×2・95キログラム／羽）と4・8%の微増（処理羽数11・2%減少、生鳥重量18・5%増加）となった。ブ

ロイラー処理重量の4・8%増加は、処理羽数11・2%減少を生鳥重量18・5%増加でカバーしたことになる。こうした理由で、ブロイラー産業では種鶏孵卵場部門が厳しく、処理場とブロイラー農場部門が利益を確保してきた。

それでは将来、処理羽数が増えて、種鶏孵卵場部門で持続可能な利益が出てくるのだろうか。過去28年間の年平均処理増加羽数（率）は△0・03億羽（△0・40%）、年平均生鳥増加（増体）重量（率）は0・016キログラム（0・66%）であった。14年前の2001年に、処理羽数は過去最低の5・67億羽となったが、翌年から増加に転じた。過去5年間（2010年～2014年）の年平均処理増加羽数（率）は0・06億羽（0・88%）、年平均増体重量（率）は0・010キログラム（0・035%）と、処理羽数（△0・03億羽↓0・06億羽）が増えて、増体重量（0・016キログラム↓0・010キログラム）が低下する傾向にある。設備更新が必要な種鶏孵卵場も良い方向に向かっていると見える。

この背景には、AWが肉用鶏の育種に影響を与えていることが挙げら

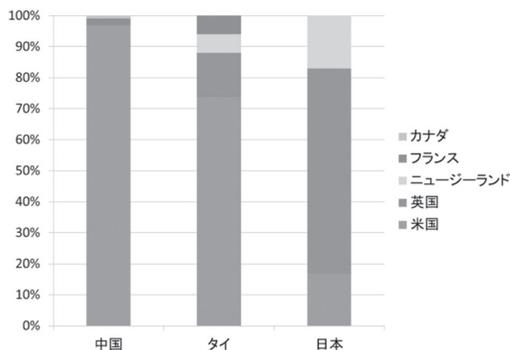


図1 2014年度中国・タイ・日本の輸入先別原種鶏の輸入割合

れる。2013年に第81回国際獣疫事務局(OIE)総会で第7章10のAWに関するブロイラー生産方式規約に関する新規章については、系統の選抜にあたって生産性だけでなく、福祉や健康状態も考慮すべきとの記載について「検討中」を付した上で採択された。この件については、米国が修正を提案する意向を表明し、一方、EUは自らの意見が反映された記述であることからこれを変更しないよう主張した結果、この

部分は引き続き検討することとなった。

## (2) HPAIの影響

①鶏肉・調製品と肉用原種鶏の貿易、②飼料コスト、③Food vision (フード・ビジョン)、④利益と株価の順に説明する。

### ①鶏肉・調製品と肉用原種鶏の貿易

国内消費鶏肉供給元は輸入50%と国内生産50%である。2014年度(2013年度)の輸入先別輸入割合は、米国1%(1%)、中国11%(14%)、タイ15%(12%)、ブラジル23%(23%)と、中国とタイは輸入の26%(26)と半分を占めた。ところが、この両国のブロイラー生産に問題が起きている。

英国と米国でのHPAI発生を受けて、2015年に中国とタイは両国から原種鶏輸入を禁止している。肉用原種鶏の貿易について、2014年度中国輸入先別原種鶏の輸入割合は米国97%・フランス2%・カナダ1%、タイの輸入先割合は米国74%・英国14%・フランス6%・ニュージーランド6%となってい

た。その結果として、2015年の中国の原種鶏輸入実績(2014年推測120万羽)は2015年6月末で推測15万羽、タイの原種鶏輸入実績(2014年実績56万羽)はニュージーランドの推測数%と急減している。一方、2014年度(2014年4月~2015年3月)日本の輸入先別原種鶏の輸入割合は英国66%・米国17%・ニュージーランド17%となっていた。2015年(2015年4月~)の日本の原種鶏輸入実績は、6月末で3万羽(2014年実績16万羽)である。

2014年度の中国・タイ・日本の輸入先別原種鶏の輸入割合は図1のように、米国と英国は非常に大きな輸出国となっている。

英国産と米国産の原種鶏輸入禁止は、中国とタイのブロイラー産業に非常に大きな悪影響を与えている。2016年度に中国とタイのブロイラー生産量は減少して、日本向け鶏肉と調製品輸出は不安定化すると予測される。

### ②飼料コスト

原種鶏不足による世界的なブロイラー減産予測、米国のエタノール量

産化、国内飼料米増産等により、飼料価格は下がると予測される。特に飼料米については、農林水産省は今年3月末に閣議決定した「新たな食料・農業・農村基本計画」においては、飼料用米の生産努力目標として2013年度実績の10倍となる110万トン掲げた。

### ③フード・ビジョン

2012年、ロンドンオリンピック実行委員会はフード・ビジョンを採択した。このビジョンは、オリンピックとパラリンピック開催期間中に、選手と訪れる1400万人にイギリス産食料を供給するものであった。乳製品、牛肉、羊、鶏肉等は英国産でなければならぬし、コーヒ、バナナ、砂糖等はフェアトレードであるビジョンも含まれていた。この国産志向ビジョンは、2016年のリオデジャネイロ、続く2020年の東京オリンピックへと引き継がれることになっている。当時のロンドン実行委員長ポールデイト氏は、「英国が供給出来る食べ物、適切な値段で持続可能であり歓迎されるもの」と述べている。東京オリンピックでも「おもて

なし」は日本食材で行われるのではないだろうか。

### ④利益と株価

生産コストダウンと鶏肉相場高および飼料コスト安定により、2014年度にブロイラー産業のインテ企業は過去最高利益決算となった。この傾向は今後も続くとして、インテ企業は次世代に向けて老朽化した生産基盤の設備更新投資を始めている。また、ブロイラー産業の上場会社である株アクシーズの株価は、過去1年間にわたって高騰している。利益と株価はブロイラー産業の未来を反映するといわれる。

### (3)AWの動向

#### ①米国カリフォルニアAW州法

##### (Prop 2)の現状

2015年1月から実施になったProp 2の養鶏業界への影響等について報告したい。Prop 2とはケージ内飼育家畜に関する州民発案の法令で、従来型ケージ飼育を禁止し、違反は罰金となることを規定している。この法令は2008年11月4日にカリフォルニア州で行われ



写真1 太平洋岸養鶏協会訪問 (2015年6月)

た投票の結果、賛成63・2%、反対36・8%で可決され、2010年7月にカリフォルニア州外業者にも義務化された。法令の概要は、肉用の子牛や母豚、および採卵鶏とブロイラーが、寝転がったり、立ったり、反対の方を向いたり、羽を広げるのを妨げてはならないとしている。ただし、輸送や家畜の駆り集め、卸売市場での管理法で認められたと畜研究、治療の際を除かれる。これにより、州外の鶏卵業者もカリフォルニア州に卵を出荷するためには、従



写真2 SEFSシール (2015年6月)

来型ケージをケージフリーに切り替えるか、改良型ケージに入れ替えることが求められる。

筆者は2015年6月24日に太平洋岸養鶏協会 (Pacific Egg & Poultry Association) (写真1) を訪問して、デビー・マードック事務局長とProp 2について意見交換を行った。カリフォルニア州で消費される卵を生産する採卵鶏に適用される2013年実施のCalifornia Shell Egg Food Safety Regulation Guidance (CASEFS) は20



写真3 American Humane Certifiedシール (2015年6月)

15年1月に改定され、Prop 2規則適応として下記の低飼育密度が追加されている。

視察した数カ所のスーパーでは、写真2のようにすべての卵パックにCASEFS表示がされていた。Prop 2実施と高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) の影響もあり、カリフォルニア州での卵小売値は前年と比べて倍以上に高騰している。一方、鶏肉の表示では、Prop 2対応表示として第三者認証機関からのシール (写真3) が見られた。

採卵鶏羽数	1	2	3	4	5	6	7	8	9<
m/羽	0.21	0.13	0.11	0.09	0.09	0.08	0.08	0.08	0.07

③ 畜産技術協会のAW専門家育成  
 2014年に農林水産省はAWホームページを立ち上げて普及に動いている ([http://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/animal\\_welfare.html](http://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/animal_welfare.html))。同時に、公益社団法人畜産技術協会を事業実施主体として、2年計画のAW専門家養成事業が始まった。事業内容は、ブロイラーAW専門家養成

② 英国のAWと国産  
 2010年5月に視察した大手量販店のセインズベリーの店舗では、フリーダムフーズのロゴ(写真4で丸いシールのAW基準合格マーク)は国産表示(British Meat)と表示されていて、AWは国産として、フード・ビジョンを先取りしていた。こうした新しい動きは日本国内にも生まれてくるだろう。



写真4 国産表示 (セインズベリー)店舗での鶏肉売り場、2010年5月



写真5: ブロイラーの飼育実態アンケート調査報告書 (平成27年3月、公益社団法人畜産技術協会)



写真6: AW 専門家養成事業AW技術研修会テキスト (ブロイラー) (平成27年3月、公益社団法人畜産技術協会)

のための基礎研修会等の開催、技術研修会教材の作成および技術研修会の開催などである。  
 2015年3月に公益社団法人畜産技術協会が発行されたブロイラーの飼育実態アンケート調査報告書(写真5)によると、3分の2の農場関係者は2011年に作成された「AWの考え方に対応したブロイラーの飼養管理指針」を知らないと答えている。事業2年目の2015年は、AW専門家を養成するため

④ 大学へのAW寄附講座支援  
 AW産学共同研究が、2008年から2015年に東北大学大学院農学研究科家畜福祉学寄附講座(写真7・8)に始まり、2015年から帝京科学大学生命環境学部応用動物福祉学寄附講座(写真9)へと佐藤



写真7 寄附講座開設記念講演会 2008年11月東北大学川渡共同セミナーセンターにて

教授と支援企業のお陰で続いている。佐藤教授の言葉を借りれば、「AW寄附講座のミッションは、①世界動向の把握と情報提供、②研究開発、③研修会とシンポジウム開催等にあり、AWは世界的に実施段階にあり、OIEは2016年に技術仕様書を作成する予定になっています。よって、飼育とと畜がグローバルスタンダードの基準に準拠しているのか明らかにする必要があります。グロー

バルスタンダードと現状の相違点を把握して、どのように改善していくか考えていきます」。

(4)まとめ

ブロイラー産業は国際ビジネスとして成長発展してきたが、HPA Iは鶏肉・調整品と肉用原種鶏の貿易に急ブレーキをかけ始めている。未来予測として、鶏肉・調製品輸入減少、国内飼料米生産、フード・ビジョン、AW等により、持続可能

な地域循環型の国内ブロイラー産業が伸びてくるのではないだろうか。2014年度、ブロイラー産業のインテ企業は過去最高利益決算をした。また、一社ある上場会社の株価は高騰している。利益と株価はブロイラー産業の未来を反映するといわれている。この傾向は続くとして、インテ企業は次世代に向けて老朽化した生産基盤の設備更新投資を始めている。結論として、国内ブロイラー産業の未来は明るい。



写真8 共同寄附講座意見交換会 2011年6月東北大学 東北大学大学院農学研究科・農学部（雨宮キャンパス）にて



写真9 共同寄附講座意見交換会 2015年6月帝京科学大学千住キャンパス本館にて